

## 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

総合学科の特色を生かし、生涯を通じて学び続けることのできる学力を備え、社会に貢献し、豊かに人生を送ることのできる人材を育成する。

- 1 深い学び...思考力・判断力・表現力を育成し、知識を基に個々の学びを深めることのできる学校
- 2 進路実現...進路選択の基礎となる確かな学力の定着を図り、生涯にわたって学び続ける力を育成する学校
- 3 共生推進教室設置校...違いを認め合い「ともに学び、ともに育つ」学校、一人ひとりの存在が大切にされる学校
- 4 地域からの信頼...行きたい学校、行かせたい学校として地域から信頼される学校

### 2 中期的目標

#### 1 自らの進路を切り開くことのできる確かな学力の育成

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業を行う。

- ・自ら授業力向上に努めるだけでなく、相互授業見学、公開授業、研究協議、研修等により、授業改善に努める。
- ・ICTを活用した授業など各種工夫を取り入れた魅力ある授業をつくる。
- ・新学習指導要領や高大接続改革の主旨に則り、多様な「学校設定科目」の開設などにより総合学科の強みを生かした教育課程の編成をおこなう。  
興味関心を持って取り組むことのできる授業が多い H30：69% 2021年：75%

(2) 生徒の学びを支援する進路指導に係る各種取組みを実施する。

- ・体験的な学びの充実等、進路について自ら考える機会をつくり、生徒の学びのモチベーションを高める。
- ・補習や講習、進路ガイダンス等の充実により、満足する進路が実現できることをめざす。
- ・家庭学習（授業外学習）に取り組む力の育成を図る。
- ・英語資格試験、漢字検定などの資格取得を積極的に推進する。

自分が決めた進路に満足 H30：87% 2021年：90%

国公立大学、有名私立大学への進学実績の向上

関関同立 H30：20名 2021年：30名、産近甲龍および四女子大（京都女子、同志社女子、武庫川女子、神戸女学院）H30：91名 2021年：100名の合格

#### 2 自尊感情、自己肯定感や探究心を育み、学びを深める教育活動の実践

(1) 学校行事や部活動を通じて主体性、協同性、コミュニケーション力など人間関係力の育成を図る。

- ・共生推進教室の生徒と総合学科生徒との交流の機会を持ち、インクルーシブ教育の推進を図る。
- ・学校行事や部活動を生徒主体で運営することにより、自ら課題を発見し協働しながら解決していく力を育む。

(2) ボランティア活動・地域交流への取組みを促し、自己肯定感を育む。

(3) 国際交流を推進し、国際的な視野を育み、異文化理解を深める。

#### 3 安全で安心な学校づくり

(1) 授業規律の確立、一枚岩となった生徒指導、挨拶、言葉かけ、校内美化・清掃の取組みを行うとともに、過ごしやすい学習環境を整える。

(2) 教育相談体制を充実させ、いじめ防止に取り組み、安心して学校生活を送れる環境を整える。

(3) 人権教育の充実を図り、一人ひとりの存在を大切に学校づくりをすすめる。

#### 4 学校の組織力向上及び学校の魅力の発信

(1) 学校の教育目標を共有し、チームとして学校の教育活動に取り組む組織作りを行う。

- ・PDCAサイクルを活用し、学校課題の解決を図る。
- ・研修の成果を共有し、教育課題及び Good Practice（学校改革に向けた他校の素晴らしい取組み）への理解を深める。
- ・教職員の働き方改革に取り組み、教職員一人ひとりの意識改革を推進しながら、時間外勤務時間数の削減に努める。

(2) 学校の魅力の発信

- ・学校説明会において、教職員及び生徒が協力して学校の魅力の発信に取り組む。
- ・学校Webページ、ブログ、広報資料等を活用して、学校の活動及び魅力が鮮明に伝わるように創意工夫、情報更新を行う。

学校説明会での中学生満足度 H30：90% 2021年：90%以上を維持しながらさらに上をめざす。

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>&lt;学校生活&gt; ・「1.学校へ行くのが楽しい」生徒77%・保護者81%、「2.学校に信頼できる友達がいる」生徒93%・保護者91%、</p> <p>&lt;学習活動&gt; ・「11.興味・関心、適性・進路希望に応じて選べる選択科目が多い」生徒91%、「3.自分の学力にあった授業が多い」生徒83%、「5.実験、観察、実習など、体験的に学ぶ授業や行事がある。」生徒71%、「7.授業では、自分の考えをまとめたり、話し合ったり、発表することがある」生徒74%。</p> <p>&lt;キャリア教育&gt; ・「19.将来の進路や生き方について考える授業や行事がある」生徒84%、「20.進路についての情報をよく知らせてくれる」生徒83%。</p> <p>&lt;生徒指導&gt; ・「15.学校生活についての先生の指導には納得できる」生徒45%、「12.学校の生徒指導の方針に共感できる」保護者71%。</p> <p>&lt;人権意識・人権教育&gt; ・「24.人権の大切さについて学ぶ授業や行事がある」生徒77%、「18.人権を尊重する意識を育てようとしている」保護者80%。</p> <p>&lt;情報提供&gt; ・保護者アンケート「学校のホームページを見ることがある」80%、「28.学校のホームページや携帯電話メール配信の内容は適切である。」92%、「29.学校は教育情報について提供の努力をしている」86%</p>	<p>第1回 令和元年6月14日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの内容が充実してきれいになった。</li> <li>・挨拶はコミュニケーション力の基である。習慣付けのため、ぜひとも教員側からの挨拶を励行していただきたい。</li> </ul> <p>第2回 令和元年10月25日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、大学においても教員志望学生にICT機器を活用した授業の実践を推奨している。機器の整備および活用推進を行なっていく必要がある。</li> <li>・ネット依存は深刻な問題である。依存度が高い場合、（学習も含め）他のことへの関心が無くなってしまふ。スマホやゲームに依存することによって時間のゆとりがなくなり、却って時間に追われるような結果になっているのは残念なことである。改善のための指導が課題である。</li> </ul> <p>第3回 令和2年1月24日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートの回収率が5割を切っている。より客観性のあるデータを確保する意味からも、少なくとも5割以上のデータが欲しい。アンケートを配付する際、趣旨や意義についてしっかりと説明し、回収率をアップする必要がある。</li> <li>・施設・設備については、改善の余地があると思う。建物自体の老朽化は致し方ないが、整備をおこなうことで学校の印象が良くなる。</li> </ul>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 自らの進路を切り開くことのできる 確かな学力の育成	(1)主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業 ア 授業研究委員会を軸とした組織的な授業改善  イ 新教育課程の検討	(1) ア・授業研究委員会により、教育情報の共有化や教育課題の共有を図る。 ・相互授業見学、公開授業・研究協議を行い授業力の向上を図る。 ・総合学科の特色である少人数授業を通し、新学習指導要領に即した主体的・対話的な学びに向けた授業改善をおこなう。 イ・新教育課程に向け、総合学科のメリットを生かした学設科目の検討をおこなう。	(1) ア・主体的・対話的で深い学びに向け、指導方法の工夫・改善をおこなっている。 75% (H30: 71%) ・授業では、自分の考えをまとめたり、話し合ったり、発表したりすることがある。 75% (H30: 73%) イ・新教育課程の検討	(1) ア・「主体的・対話的で深い学びに向け、指導方法の工夫・改善をおこなっている。」の肯定率は76%と目標に達した( ) ・「授業では、自分の考えをまとめたり、話し合ったり、発表したりすることがある。」の肯定率は74%と少しではあるが増加した。( ) イ・新教育課程の検討は、順調に進捗している。総合学科のメリットを生かした学説科目については来年度も引き続き検討を続けていく( )
	(2)生徒の学びを支援する進路指導に係る各種取組み ア 青雲道場の実施、学習習慣の定着 イ 部活動との両立	(2) ア・青雲道場(補習や講習、勉強合宿、大勉強会、自習室など)を実施する。 ・青雲道場の活用に加え、授業での課題や小テスト等、学習習慣の定着を図る。 イ・文武両道の学校創りに向け、部活動と学習の両立を図る。 ・家庭学習時間を確保するため、部活動基本方針に基づく適正な活動時間を順守する。	(2) ア・自習室・HR教室での自習 55% (H30: 51%) ・家庭学習(授業外学習) 1時間以上 55%(H30: 45%) イ・勉強と部活動の両立 70% (H30: 65%)	(2) ア・「学校の自習室やHR教室で自習することがある。」の肯定率は57%と目標を上回った。( ) ・「平均すると1日に1時間以上家庭学習している。」の肯定率は45%と昨年同様であった。引き続き、課題などの家庭学習を推進する働きかけが必要である。( ) イ・「勉強と部活動の両立ができている。」の肯定率は68%であった。目標には届かなかったが、昨年度より3ポイント向上した。( )
2 自尊感情、自己肯定感や探究心を育み、学びを深める教育活動の実践	(1)人間関係力の育成を図る ア 部活動 イ 学校行事 ウ 共生推進教室・総合学科交流行事	(1) ア・新入生に説明会を実施し部活動の加入を推進し、人間関係を築く力を育てる。 イ・学校行事において、生徒の主体性に任せる部分を取り入れながら、改善に努める。 ウ・共生推進教室の生徒と総合学科生徒との交流行事を実施して一層理解を深める。	(1) ア・部活動加入率: 80%台維持 (H30: 80%) イ・行事が楽しい80% (H30: 73%) ウ・交流行事の実施3回以上 (H30: 同じ)	(1) ア・部活動の加入率は85.6%と目標に達した。( ) イ・「行事が楽しい。」の肯定率は72%と昨年度より1ポイント減少した。生徒主体の行事運営による満足度の向上が課題である。( ) ウ・大きな交流行事としては夏の七夕プロジェクトとクリスマス会であったが、それに加えフレンド生による校舎内の装飾を行なった。( )
	(2)自己肯定感の育み ア ボランティア活動・地域交流	(2) ア・部活動や個人参加も含めて学校全体としてボランティア活動・地域交流を積極的に推進する。	(2) ア・学年単位での校外清掃 1・2年各1回(H30: 同じ) ・その校外清掃以外のボランティア活動・地域交流参加 60名以上(H30: 43名)	(2) ア・校外清掃は計画通り実施できた。( ) ・ボランティア活動には校区クリーンアップなど、のべ46名の生徒が参加。また、部活動を通して、13部が、のべ40回近隣の中学校や地元のイベント、施設などで交流をおこなった。( )
3 安全で安心な学校づくり	(3)国際交流の推進 ア 国際交流の推進	(3) ア・新たな国際交流企画としてAFSと連携した留学生との交流をおこない、国際理解教育を推進する。	(3) ア・交流事業(今年度新企画) 参加生徒20名 (H30: 20名)	(3) ア・今年度初めて行ったAFSと連携した国際交流事業は、17名の参加であった、参加生徒の満足度が高く来年度以降も継続実施したい。( )
	(1)生徒指導、遅刻指導、仲間づくり、過ごしやすい学習環境 ア 生徒指導・遅刻指導  イ 生徒間の信頼関係 ウ 学習環境	(1) ア・学校全体で取り組む遅刻指導を継続する。 ・生徒に寄り添いながら丁寧に対応し、生徒指導への納得感を高める。	(1) ア・遅刻者数1000名未満維持 (H30: 1024名) ・先生の指導に納得50% (H30: 44%)	(1) ア・のべ1,230名。目標を達成することができなかった。( )しかし、その多くは一部の精神的な支援が必要な生徒による遅刻であり、生徒指導における遅刻指導は一定の効果を示した。  ・「先生の指導に納得できる。」の肯定率は45%、昨年度から微増をしたものの目標に達することはできなかった。引き続き、説得と納得に基づいた指導を進めていく必要がある。( ) イ・「クラスに信頼できる友達がいる。」の肯定率は93%と昨年度を上回った。( ) ・「クラスには話しやすい雰囲気がある。」の肯定率は84%と概ね目標に達した。( ) ウ・「施設・設備に満足」の肯定率は51%と昨年度から減少した。老朽化対策が課題である。( )
(2)教育相談体制の充実 ア 学校全体での取組み	(2) ア・教育相談委員会や職員会議を通じて生徒情報の共有化を図り、担任、学年を軸に学校全体で多様な生徒の支援に取り組む。	(2) ア・生徒情報の共有化を図りチームで対応 90%以上堅持 (H30: 91%)	(2) ア・「生徒情報の共有化を図りチームで対応する。」の肯定率が86%と減少した。学年を軸としたチームワークの向上が課題と言える。( )	
(3)人権教育の充実 ア 人権研修	(3) ア・教職員、生徒対象の人権研修を実施し、対応力の充実を図る。 イ・昨年度初開催した、保護者との合同人権研修会の継続実施	(3) ア・職員研修2回(H30: 2回) イ・合同研修1回(H30: 1回)	(3) ア・「人権尊重について教職員で話し合う機会がある。」の肯定率が昨年度比7ポイント向上し、71%になった。いじめの組織的対応についての肯定率も3ポイント増加し、88%になった。( )	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 学校の魅力の発信</p>	<p>(1) チームとして学校の教育活動に取り組む組織作り ア・研修成果や教育課題の共有 イ・教員集団のチームワーク向上 イ 働き方改革 イ・部活動指導による時間外勤務時間の削減</p> <p>(2) 学校の魅力の発信 ア 学校説明会 イ 学校Webページ・ブログ・広報資料</p>	<p>(1) ア・研修の成果や教育課題、Good Practice を共有する機会やミーティングを設け、話題にすることにより、チームとして教育活動に取り組む組織をめざす。 イ・部活動指導が、超過勤務の大きなウエイトを占めているため、今年度策定した学校部活動基本方針における活動時間、休業日の確実な実施による勤務時間削減を図る。</p> <p>(2) ア・教職員及び生徒がともに、学校の魅力づくりを意識して行動する。学校説明会において、教職員及び生徒が協力して学校の魅力の発信に取り組む。 イ・学校Webページ、ブログ、広報資料をこまめに更新して、学校の活動及び魅力を鮮明に伝える。</p>	<p>(1) ア・研修報告の成果の共有 85%以上維持 (H30: 87%) イ・教育活動について、日常的に話し合っている 80%以上 (H30: 79%) イ学校部活動方針 (活動時間、休業日) の順守・徹底 イ・全クラブ 104 日以上の休養 イ・ノークラブデーの完全実施</p> <p>(2) ア・学校説明会での中学生満足度 90%維持 (H30: 90%) イ・ブログ (学年、部活動、青雲道場、校長) の更新 400 回以上を保持 (H30 年度約 400 回)</p>	<p>(1) ア・「研修等の成果を他の職員に伝える機会がある」の肯定率は 86% と概ね目標を達成した。( ) イ・「教育活動について日常的に話し合っている。」の肯定率は 81% と目標を上回った。( ) イ・部活動の活動時間や休業日はしっかりと守られた。月 80 時間を超える時間外勤務の延べ人数は 4 月～12 月で、H29 年度 90 名、昨年度 76 名、今年度 70 名と着実に減少している。( )</p> <p>(2) ア・学校説明会における中学生の満足度は 92% であった。( ) イ・ブログの更新回数は 428 回 (校長 192 回、部活動 117 回、青雲道場 78 回、学年 41 回) と目標を上回った。学校教育自己診断においても、保護者の閲覧率は増加し、感謝を伝える旨の自由記述もあった。( )</p>
---	---	--	--	---